

大阪府万博推進本部会議（第2回）及び大阪府 SDGs 推進本部会議（第3回）
議事概要

日時：令和元年8月27日（火）11:30～12:15
ところ：大阪府庁本館 特別会議室（大）

【議事概要】

（山口政策企画部長）

- それでは、大阪府万博推進本部会議を開催させていただく。
- 万博に関しては、昨年11月に万博開催が決定し、1月に準備母体である博覧会協会が立ち上がった。8月に協会の方も人員体制が整い、現在、急ピッチで万博の準備が進められている状況。
- 本日は2点議題があり、1つは最近の万博をめぐる動きと今後のスケジュールの共有。2つ目が現在作業中の万博ビジョン、いわゆる万博をインパクトにどういう大阪をつくっていくのかという点を、各部局のみなさんの協力の基に検討を進めており、この中間報告、現在の到達点を確認し、ご議論いただきたい。
- この後、SDGsの推進本部もあるが、SDGsも万博を機にどう高めていくのかという意味では一致する取り組みであり、併せて意見をいただければと思いますので、よろしく願います。
- それでは、まず万博の関係について、最近の動きと今後のスケジュールについて、事務局の方から説明させていただきます。

（中野政策企画部理事）

- 次第の次に付けております資料1「大阪・関西万博にかかる最近の主な動きと今後のスケジュール」をご覧ください。
- 上段の「最近の動き」としては、本年4月にいわゆる万博特措法が成立し、5月31日、同法に基づき、2025年日本国際博覧会協会が万博の準備・運営を担う法人として指定された。5月15日には同協会の社員総会、理事会において役員が選任され、知事は副会長、理事に就任された。
- 本年6月開催のG20大阪サミットにおいては、会場内外において、各国首脳、メディア関係者等に対し、大阪・関西万博のPR活動を行った。
- 下段の「今後のスケジュール」をご覧ください。現在、協会は一般社団法人だが、年内を目途に、寄付金の損金算入等の対象となる公益社団法人の認定を受けることを目指している。
- また、同じく年内を目途に、万博の実施計画を記載した登録申請書を取りまとめ、BIE、博覧会国際事務局に提出し、来年6月のBIE総会で承認を得た上で、10月開催のドバイ博において各国に参加招請を行っていくこととなる。
- 登録申請書のとりまとめと並行して、来年秋頃を目途に、会場のインフラ整備、アクセス計画などを盛り込んだ基本計画を策定すべく、作業が進んでいる。
- 以上でスケジュール等についての説明を終わらせていただく。

（山口政策企画部長）

- 続いて、企画室より万博ビジョン関係を説明させていただきます。

（奥平企画室副理事）

- 資料に基づいて説明、今回は中間報告をさせていただきます。この資料の取り扱いについてだが、現時点の

取りまとめで、今後のビジョン策定に向けた議論をするためのたたき台として作成。

- ・本ビジョンは、府市一体の策定を予定しておりますが、今は府が先行して進めており、今後大阪市との調整を進めていきたい。

併せて、大阪・関西万博との関係が深いため、博覧会協会との調整を進めていく。また、有識者のワーキンググループを設置しており、大阪の将来像に係る議論をしていただいているが、これを更に深めるとともに、各部局のみならず実施すべき施策について引き続き議論を進めて参りたい。さらには、2025年に向けまして、スマートシティとの整合性をしっかり図って、一体的に検討を進めて参りたい。

- ・それでは、ビジョンの位置付けについて、まず1ページ目をご覧ください。上段に万博開催の決定が、中段にビジョン策定の意義が書いてあります。

大阪の成長、発展のためには万博開催、成功を一過性のものとせず、そのインパクトを活かすことで、将来に向けた大阪の成長、府民生活の向上に確実につなげていかなければならない。そのためには、まず万博本体の検討と連動し、開催都市として万博の成功に不可欠なアクセス整備や危機管理能力の向上、おもてなし力の強化、先端技術の実装などに全力で取り組む。

さらに、万博本体と連動した取組にとどまらず、万博をインパクトとし、2025年のその先の将来を見据え、府域でのスマートシティの展開やSDGsなどの未来社会を先取りする施策を重層的に展開するとともに、ユニバーサルデザイン、ダイバーシティなどこれまでの施策を加速していく。それらを進めることで万博のインパクトを活かした大阪の将来にむけたビジョンを府市一体で策定していく。

- ・2ページ目は、ビジョンのイメージ。一番下には万博本体の基本計画を記載していて、万博協会が策定するもの。これと連動して、アクセス、災害、危機事象への対応などを進める。これを万博に向けて必要不可欠な施策としてやっていく。この成果は、万博後の大阪の成長、安心、安全のまさに基盤となるもの。さらには万博のインパクトを展開するために、スマートシティやSDGsの関連、10歳若返りなどの未来社会を先取りするもの、さらには先ほどのフォアキャスティングである健康寿命の延伸、都市魅力の創出などをやっていくということです。それによって、万博のレガシーを活かして大阪の持続的な成長、安心、安全の実現に取り組んでいく。
- ・3ページは、ビジョンの構成をわかりやすく示したもの。広く府域でインパクトを活かして展開する部分を第1部。万博本体と連動する部分は第2部となっている。
- ・4ページをご覧ください。万博本体と連動することに関して、万博協会が策定する万博基本計画と万博ビジョンとの関係を書いている。万博成功には協会と府市の連携が不可欠であること、さらには本体と連動した取組には、協会が策定する基本計画において、来場者の安全確保やインフラの整備などについて計画に盛り込まれる予定だが、このビジョンとも連携を図って一体的に推進する、それを図で表している。なお、基本計画については、協会ですべてから本格的な策定をスタートするというので、2020年の秋頃の予定としている。
- ・次にこれまでの取組について説明させていただく。庁内での検討について、5月の代表質問を経て、6月に庁内会議を開催し、全庁議論をスタート。ビジョン策定に向けて、様々な施策を含めた照会をさせていただき、それを集約したところ。なお、本日、状況を報告するとともに、施策の方向性をご確認いただき、取組む施策についてさらに深めたい。
- ・6ページからは、有識者ワーキングにおける取組を書いている。有識者ワーキングはこれまで3回開催しており、メンバーは掲載のとおり。万博後の大阪のあるべき姿、これは2050年を描こうとしているが、それに向けて、これまで3回ワーキングを開催した。万博の理念などに造詣の深い橋爪紳也先生にも参加いただいております、各界でご活躍の方々にご参加いただいております。
- ・次に7ページで、将来像は描ききっているわけではありませんが、このワーキンググループで今後の人口減少とか医療、介護需要、インフラ老朽化などの将来の予測や2025年大阪・関西万博の理念を踏まえ、万博後のあるべき将来像に向けて進めていくため、施策の方向性を万博の理念のあるテーマ、コンセ

プト、意義を踏まえて3つ挙げていただいております、健康に係ること、持続可能な都市、更には世界に向けたプレゼンスの向上、この3つを方向性として、意見をいただいたところ。

- ・8 ページは、具体的にこれまでどんな意見をいただいているかを掲載している。まだまだ途中ですが、現時点でいただいた意見としては、将来、科学技術等が進展して多くの課題の解決が予想されるなかで、将来の個人の生き方や幸せをどう考えるかを具体的に考えていく必要がある。将来像についてはいろいろ描こうとしている中で、東京にはない良さ、大阪の強み、個性を活かした姿を描いていかなければならないというご意見。また、少子高齢化もそうですが、様々な課題がまず大阪で発生して、それを解決するために努力をしていく中で、そのような課題解決先進都市として、世界に発信していくような都市を目指す、などいろいろご意見をいただいているところ。
- ・次に施策全体の概要につきまして、先ほど構成をお伝えしましたが、その構成に基づいて、どういったことを考えていくか、ということで、万博のインパクトを最大限活用することが基本。その考えの基で、バックキャスト、フォアキャストの両面から施策全体を整理。そのうえで、フォアキャストに係る施策のなかに万博本体と連動した施策、これを白抜きで記載しておりますが、そういったことを整理していきたいと考えている。あくまで現時点で整理のために記載している。
- ・内容について、万博のインパクトを活かしていくという第1部、10ページから記載。先ほどの有識者の意見を踏まえて、万博にふさわしい都市になっていくため、2025年のその先の未来を見据え、設定しているもので、それぞれについて今考えられる取組を書いている。健康についてはライフサイエンス分野など、大阪関西の強みを活かして誰もが健康でいきいきと活躍できる都市を目指すために、10歳若返りとか、健康寿命の延伸等を記載。
- ・12ページは持続可能な都市、都市の課題を解決して、安心安全で快適に生活できる都市を目指すということで、SDGsの推進の取組とか、スマートシティの確立を始め、都市基盤を形成することなどを記載。
- ・13ページでは、世界に向けたプレゼンスの向上ということで、世界との交流を促進し、世界に開かれた誰もが自らの可能性を発揮できる都市を目指して、都市魅力の創出、ダイバーシティ、世界市場に打って出る大阪産業、大阪企業の支援などを記載。
- ・続いて第2部。これは先ほどの白抜き部分のところ。万博本体と連動して、成功を支えるとともに、持続的な成長の基盤となる施策をまとめている。
- ・14ページは、万博開催中、2,800万人という非常に多くの方が来場される中、安全安心快適に来ていただくこと。
- ・15ページは、会場に容易にアクセスしていただくということで、現在でも高水準な交通機能をさらに充実していく必要があることを掲載。
- ・17ページは、安全に楽しんでいただける万博を目指して、すべての人の安心安全の確保ということから、掲載をしているところ。
- ・18ページは、おもてなし。ハードとソフト両面でおもてなし力を強化するとともに、みんなであたたかくお客様を迎える機運醸成等が必要としているところ。機運醸成の中にはおもてなしとして、先日発表のありました「万博の桜2025」の取組なども例示として掲載をさせていただいている。
- ・19ページは、これらを支える先端技術の実証実験の実施として、万博のアクセスもそうですが、会場の運営にも密接に関係している部分で、先端技術の実証を周辺地域でも推進していくということ。
- ・最後に、20ページには、今後のスケジュールとして、本日の万博推進本部会議の中間報告をさせていただき、今後、年末に向けて、素案のとりまとめに向けて様々に取り組んでいく予定にしており、年度末3月には、ビジョンとしてとりまとめたい。
- ・今後、有識者ワーキンググループでは、先ほど申し上げた将来像のイメージをしっかりと議論していくことと、議会でのご議論、また府民からの意見聴取も予定。協会、さらには大阪市との調整もこれからしっかりや

っていきたいと考えている。さらには、各部局のみならず、何を実施していつまでに、どこまでもっていくのか、こういったことをしっかりと協議をさせていただけたらと思う。それから、右の方にはこれと一体的にやっていくSDGsとスマートシティの関係、これも一体的にやっていこうと思う。

(山口政策企画部長)

•それでは、ご意見やご質問あれば、よろしく願います。

(田中副知事)

•万博のビジョンについて、万博を成功させるための取り組みとなると、先ほど説明があったように、協会が考えるでしょうし、国も考えるかもしれない。そんななかで、まとめようとしているスケジュールのなかで、府、あるいは、市がやる事業なのか、それとも民間にも仕掛けてやってもらわないといけないものなのか、そのあたりを教えてもらいたい。

(奥平企画室副理事)

•基本、万博本体は国と協会などがやるが、それを支えることを、府市を中心でまず描こうとしている。ただ、経済界も様々な取り組みをしているので、しっかりと連携を図り、例えば、実証のフィールドを府市でつくり、民間の方にやってもらうなど、そのようなかたちで民間の方々しっかりと連携を図っていきたい。あくまでビジョンとしては府市がやることをまず描こうとしている。

(山口政策企画部長)

•少し補足すると、まずは府市の行政ベースでやることをしっかりまとめたい。そのなかには当然、民間を巻き込んでやることも入ってくるので、そこは協会や経済界とも調整をして、入れられるものは入れていくということ。
•この計画は今年度で終わりというものではなく、開催まで、進行管理のような、進化させていく、バージョンアップさせていくことをやっていこうと思っていますので、今年度は行政ベースですけれども、最終的には、民間に広げていくような取り組みも入れていきたいなと思っている。特に、万博のレガシーを残していくという意味で、健康、10歳若返りとかをやろうとすれば、府だけではなく、民間や市町村の力も当然必要ですので、そこも睨みながら計画をつくりたいと考えている。

(田中副知事)

•ぜひ、そうしていただきたい。つまり、誰が主体になるかということですが、府市はまず自らやることを中心にということだが、先ほどの説明では来年の秋に基本計画が決まる。基本計画の中に府市の考え方を反映させていきたいという意味では、このスケジュールで一旦まとめることが必要だと思う。けれども、基本計画が決まれば、それを受けてもう一度、府市のやるべきこと、あるいは民間と連携してやることが出てくると思うので、それを視野に入れたスケジュール感で作業をお願いしたい。

(奥平企画室副理事)

•承知した。

(西田商工労働部長)

•9ページにあるフォアキャスティングとバックキャスティングの考え方について、ここで事例の仕分けをしていただいていると。ただ、当部で言うと、例えば持続可能なところのバックキャスティングのところスタートアップ支援が入っているが、次の10ページのフォアキャスティングというのにこれまでやってきた施策が含まれてい

る。バックカスティングの方が未来社会を先取りする新しい施策ということだが、スタートアップなんかはこれまでもやってきたので、フォアカスティングの方に本来仕分けしてもらうべきものかなと、見ていて感じる。それはこれからの調整で、変更できるのかもしれないが、フォアカスティングとバックカスティングで、これからの作業に違いが出て来るのか、分けられた意義と今後これがどうかたちで作業に影響してくるのか、その辺を教えていただきたい。

(奥平企画室副理事)

- ご指摘の点も含めて事務局からまた調整させていただこうと思うが、まず、バックカスティングは先ほど申し上げましたとおり、あるべき姿、大阪の将来に向けた姿を、有識者ワーキングで進めているところで、しっかりとあるべき姿を描いて、そこからバックカスティングをするかたちで取り組みをスタートしていく、やっていこうとすることをまとめようとしている。未来社会、まだ想像は尽きませんが、それに向けて今のうちから手を打つ、スタートするというを記載しております。
- また、フォアカスティングにつきましては、これはすでに取り組みをスタートしているもの、これからスタートするものもあるとは思いますが、大阪の現状をしっかりと、2025年までにいかに高めていくかと。万博を開催するに相応しい都市にするために、地道なところをしっかりと伸ばしていくと。
- こうした分類の中で、スタートアップを整理させていただいたところだが、分類そのものの整理も含めまして、これから調整させていただきたい。

(西田商工労働部長)

- フォアカスティング、バックカスティングのコンセプトをもっとしっかりしていただいて、なにをどうやっていくのかを、ぜひもう少し定義付けしていただけたらと思う。

(山口政策企画部長)

- 他はありませんでしょうか。
- 時間も迫っているので、知事には最後にご発言をしていただくということで、一旦、ここで万博推進本部会議は閉めさせていただきまして、引き続きSDGs推進本部会議を開催します。
- それでは事務局から説明をお願いします。

(西島企画室副理事)

- 『資料「大阪がめざすSDGs先進都市の姿」中間整理案』に沿って説明させていただく。
- まず、4ページをご覧ください。中間整理案の概要です。この中間整理案では、1つ目は、昨年4月に本推進本部を設置し、進めてきた取組みのとりまとめ、2つ目は、今年度の有識者ワーキンググループで検討した、SDGs17ゴールに関する府の到達点と今後の検討の方向性、3つ目は、「めざす姿」の取りまとめに向けた、今後の取組みについて記載。
- 5ページ、基本的な考え方について、一番下のところ、大阪の持続的成長や、府民の豊かさ、安全・安心の基盤づくりにつながるという、意義を記載。
- 6ページ、7ページは、これまでの取組み概要を記載しています。時間の関係で説明を省略させていただきます。別添の「参考1」に今年度の各部の取組みをまとめていますので、後ほどご覧いただきたい。
- また、本年4月に設置した有識者ワーキンググループについて、8ページをご覧ください。有識者ワーキンググループの概要を記載している。
- 9ページに、これまでのワーキンググループで有識者からいただいた主な意見をまとめて記載。考え方として、「府民目線を大事にすべき」、また、「府民や企業の声をしっかり把握する」ことが重要であるといった

ご意見をいただいている。視点としては、「誰一人取り残さない」、「大胆に変革する」といった考え方が重要であることや、世界への貢献と地域の課題への対応という2つのベクトルで考えていく必要があること、また、時間軸として、2025年まで、2025年の万博開催、2025年以降の3つの観点で整理が必要といったご意見をいただいている。

- 10 ページをご覧ください。こちらは、「めざす姿」をとりまとめるにあたっての、考え方の全体像をまとめたもの。図左下にあるように、まずは、「SDGs17 ゴールの到達点」を整理し、そのうえで、府の施策との整合性を図り、かつ、図右下にあるように、府民や企業などの意見も踏まえ、たうえて、「めざす姿」を明確にしていくという流れをまとめている。
- 11 ページをご覧ください。こちらが、これまでの有識者ワーキンググループで議論を進めてきた SDGs17 ゴールの現時点における府の到達点を図に整理したもの。上段に記載のとおり、到達点の整理にあたっては、SDSN と呼ばれる国連のシンクタンクが公表している「国際的な日本の評価」と、国の関連機関が公表している「国内における大阪の評価」を用いて整理。こうした評価軸が絶対というわけではないが、今後、様々なステークホルダーと議論を深めていくうえで、まずは、大阪の立ち位置を明らかにするための一つの拠り所として整理。
- 図は、横軸が日本の国際評価、縦軸が大阪の国内評価。例えば、右上、ゴール6「水・衛生」や、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」は、国際的な日本の評価も、国内における大阪の評価も高いゴールとなっている。それぞれの評価の概要は、参考資料として18ページ、19ページにまとめておりますので、後ほどご覧ください。
- 12 ページをご覧ください。これは、11 ページをもとにした各ゴールの分析で、例えば、先ほど例に挙げました、日本の国際評価も大阪の国内評価も高いゴール6、8、9は、大阪の強みを活かすことができるゴールであり、他のゴールの弱みの克服や国際貢献につながる取組みを考えていくことができるのではないかと分析を行っています。

2つ目は、「日本の評価は高く、一方で、大阪の評価が低いゴール」。相対的貧困率や結核などの感染者数、小中学校の正答率、刑法犯認知件数など、府民のいのちや暮らし、次世代の育成に関わる国内指標が相対的に低く、改善が必要な課題が多いという分析を行っています。

3つ目は、「日本の評価は低く、一方で、大阪の評価は高いゴール」。最も対象ゴール数が多く、3つの観点で整理しています。まず、ゴール11「持続可能都市」については、まちづくりや災害対応、都市魅力、飢餓など、他の全てのゴールを包摂するゴールとして重要になるということ。また、14「海洋資源」や15「陸上資源」といった天然資源の保護に関するゴールは、水産業産出額など地理的要件等により、大阪が、今後相対的な評価を高めていくことは難しい。一方で、環境負荷抑止の観点から12の「持続可能な生産と消費（つくる責任、つかう責任）」に集約して取組むことができるゴールという分析を行っています。

最後に、その他のゴールにつきましては、日本全体で見ると取り組むべき課題はあるが、大阪の国内評価は高いことから、引き続き継続して取り組むゴールと考えられるのではないかと分析を行っています。

4つ目は、「日本・大阪ともに評価が低いゴール」。まずゴール5「ジェンダー」に関して、日本の評価が低いことについては、日本全体で取り組むべき課題であり、一方で、大阪の国内評価が低いことについては、強制わいせつ認知件数など、16の「平和」に集約して取り組むことができるゴールといった分析をしている。また、ゴール12「持続可能な生産と消費」は、14の「海洋資源」や15の「陸上資源」など、環境に関する他のゴールを集約できるだけでなく、途上国が先進国に期待するゴールとして重要といった分析を行っています。
- 13 ページをご覧ください。こちらは、12ページの分析を踏まえ、一定のまとめを記載しています。ゴール1の「貧困」、3の「健康と福祉」、4の「教育」、16の「平和」は、今後優先的に取り組むべき課題が多いのではないかと。また、12の「持続可能な生産と消費」は、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」など

G20大阪サミットのレガシーを活かすという観点から取り組むべき課題があると考えられるのではないかと。また、さらに、これらの課題の改善には、全てのゴールを包摂する11の「持続可能都市」に関する取組みや、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」の強みを活かすべきではないかといったまとめを行っている。

- 14 ページでは、中間整理案を踏まえた、今後整理する論点をまとめている。
- 15 ページの今後のスケジュールについては、年内に「めざす姿の（案）」、年度内に「めざす姿」と取りまとめる予定にしている。当面の取組みとして、今後、有識者ワーキンググループで、重点ゴールや優先課題の絞り込を行って。各部局においては、既存施策のSDGsとの関連付けや更なる深堀り、また、新規施策の検討などを進めていただきたいと考えている。また、国で募集している「SDGs 未来都市」の応募についても検討や、市町村への働きかけを行いたいと考えています。あわせて、府民や企業、市町村などとの意見交換を行うとともに、引き続き、認知度の向上などに努めていくこととしている。
- 私からの説明は以上。

(山口政策企画部長)

- それでは、ご意見等ございましたらお願いしたい。

(山野副知事)

- 今は枠組みの検討段階で、コンテンツはこれから検討されることになると思うが、府の施策としてはスマートシティが非常に重要だと認識している中で、今回の資料に記載がないのが少し気になった。スマートシティの動きとも整合性を図りながら進めてほしい。

(西島企画室副理事)

- 万博のテーマ、いのち輝く未来社会のデザインは、スマートシティを含めた Society 5.0 と SDGs という2つ柱があると考えている。検討を進めているスマートシティ戦略とは情報共有、連携を密にしながら進めていきたい。

(新井副知事)

- 万博はそもそもSDGsの実現を目指した祭典、行事という中で、先ほどの万博ビジョンとそれぞれ理念をすみ分けて、整理をしてほしい。
- また、今日の資料を見ていると、今は既存施策の整理学で、今やっていることを整理した、という印象なので、2050年をめざした社会像について有識者からの意見も踏まえながら、新しい施策を、SDGsも含めた考え方に沿って検討してほしい。これは、とりまとめをしている政策企画部に留まらず、各局で考えてほしいと思う。

(酒井教育長)

- 各論になるかもしれないが、SDGsの整理の中で、貧困、健康福祉、教育といった分野で、自治体指標で課題が多いということをもまずは真摯に受け止めたい。そのうえで、バックキャストという視点も踏まえながら、今何をすべきか、SDGs推進本部やその他の機会を活用しながら検討していきたい。

(山口政策企画部長)

- 現時点では、中間整理ということで、現時点の整理に力点を置いた内容になっている。スマートシティを含めたそれぞれの取組みが、万博が開催される2025年を挟んでどのような大阪を作り上げるのか、最終的には一体的に収斂していくと思っているが、今のところは、SDGs、万博、スマートシティなど、個々の

テーマそれぞれについて、作業として個別に検討を進めている状況で、各部局のみなさまにも、それぞれの視点を踏まえながら、新たな施策の検討をお願いしたい。

- それでは時間になりましたので、最後に、知事から、万博本部会議、SDGs 本部会議合わせて一言お願いしたい。

(吉村知事)

- 最後のまとめの前に、万博のビジョンを策定する中で、SDGs の内容を組み込んでどうか、というのが問題意識。万博の大きなビジョンの中に、まちづくりについてのビジョンの中に、SDGs が組み込まれ、今力を入れているスマートシティも組み込んでいくような形。一本の大きなビジョンがあり、具体的にどうということをするのか、というような体にした方が良いのではないかと思う。
- 国と府と市と経済界が一体となって万博というナショナルプロジェクトを成功させるということは絶対にやっていけないといけないこと。その中で、地元自治体の大阪は、万博をインパクトとして成長に結びつけていくことが非常に重要だと思う。特に大事なことは、万博までに何をすべきか、そして万博以降にめざす社会像、そういった時間軸の明確な区分け。もちろん、万博までといっても残り 6 年ということで、できることは限られているが、1 つのビジョン・方向性に向かって、スマートシティを含めて、万博までにこうやっていく、ということと、万博の後も、大きなビジョンのもとで具体的にどのようにやっていくか、という両者を統合した形でできないか、一度検討してほしい。
- いずれにしても、万博をインパクトとして、大阪の成長と府民のみなさまの生活の質の向上につながる、そういう大阪をめざすことが重要だと思う。そうすることで、新たな産業が生まれ、大阪に明るい未来を感じられるようなまちにしていくということが一番大きなところ。
- それぞれがバラバラにやるよりは、1 つ大きなビジョンを作った方が良かった。

(山口政策企画部長)

- 最終的には、知事のご指摘のとおりになると思っている。今は、作業として、それぞれのテーマが検討を進めていて、言わば個々に列車が走っていて、それぞれの列車がどこの駅にいるのか、今は確認している、という認識。スマートシティ、SDGs、そして今後改定を考えないといけない成長戦略も含めて、最終とりまとめでどのようにして出すかはしっかり検討していきたい。

(吉村知事)

- 万博ビジョンも SDGs もスマートシティも、今年度末に策定するようなスケジュールが書いてあるので、最終的には 1 つにまとまっていくような形のものを考えてもらいたいと思う。先ほどもあったように、大阪の考え方を博覧会協会にインプットしていく意味で、こうした動きを先行させることには賛成。最終的に大阪にどうメリットがあるのか、成長につながるのか、バラバラにやるよりも 1 つの大きなコンセプトの下で 1 つのものを作った方が、わかりやすいし、組織としても共有しやすいのではないかと思うので、そういった進め方をお願いしたい。

(山口政策企画部長)

- ありがとうございます。
- それではこれをもって、第 2 回万博推進本部会議及び第 3 回 SDGs 推進本部会議を終了する。

(了)